

注) この RCT は日本東洋医学会 EBM 委員会がその質を保証したものではありません

13. 筋骨格・結合組織の疾患

文献

太田博明, 牧田和也. 腰痛 -産婦人科医が女性の腰痛として最も多いと考えている不定愁訴に関連した腰痛を中心として-. 治療 1995; 77: 1646-57. [MOL](#), [MOL-Lib](#)

1. 目的

更年期女性の不定愁訴としての腰痛に対する桂枝茯苓丸および附子との併用に関する臨床的評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

東京女子医科大学更年期外来 1 施設

4. 参加者

上記施設更年期外来受診中の女性腰痛患者 37 名

5. 介入

Arm 1: 桂枝茯苓丸 (メーカー不明) (2.5g)、1 日に 3 回、食前内服、3 ヶ月間、14 名
Arm 2: 桂枝茯苓丸 (メーカー不明) (2.5g) に加えて生薬修治ブシ末 (メーカー不明) (0.17g)、1 日に 3 回、食前内服、3 ヶ月間、23 名

6. 主なアウトカム評価項目

腰痛症状 (4 段階) が治療 12 週後に 2 段階以上の改善を示したものを著効、1 段階の改善を有効とする評価

7. 主な結果

桂枝茯苓丸単独群の著効例が 21.4%、有効例が 14.3%であったのに対し、桂枝茯苓丸・修治附子末併用群の著効例、有効例はそれぞれ 26.1%、34.8%であった。

8. 結論

更年期女性の腰痛に対しては桂枝茯苓丸単独投与に比べて修治附子末を併用すると症状改善率が高いことから、駆オ血漢方薬の単独投与よりも鎮痛消炎作用を持つ生薬である附子の併用が臨床的に有用であるといえる。

9. 漢方的考察

なし

10. 論文中の安全性評価

記載なし

11. Abstractor のコメント

更年期女性の不定愁訴としての腰痛にはさまざまな発症要因があり、一概に炎症の存在や血流障害等と腰痛という症状との一義的な因果関係が成立しない。したがって、その治療には治療者のさまざまな工夫が要求される。本研究では更年期不定愁訴女性の最も多い病態であるオ血を治療する桂枝茯苓丸をベースに、疼痛除去と血流改善に働く附子を組み合わせた治療を行い、良好な成績が得られたことは多くの臨床家にとって参考となる。オ血の診断にあわせた駆オ血剤の選択や、冷えの存在を考慮した附子末の併用等、いくぶんかの漢方医学的理論を研究プロトコールに導入した際にその成績はどのようになるのか興味深い。さらに症例を集積し、生体マーカー等を計測しながら現代科学的な方向性を持った研究アプローチが期待される。

12. Abstractor and date

後山尚久 2008.8.13, 2010.6.1